



福岡県遊技業協同組合
「第6回 こども絵画コンクール」事業



福岡県遊技業協同組合
理事長
金本正浩さん



福岡県遊技業協同組合
青年部会長
竹田光寛さん

過去最多の応募数が物語る
絵画コンクール継続への期待

2008年から続く「こども絵画コンクール」

さまざまな事情により、保護者と一緒に生活することができない状況に置かれている子どもたちの心身の健やかな成長を願い、その限らない未来に貢献することを目的に、福岡県遊技業協同組合青年部会(以下、福遊協青年部)の手によって開催されている「こども絵画コンクール」。絵画を通じて子どもたちの創造力や表現力などの感性を育むだけでなく、努力して1つの作品を完成させることの喜びを感じてほしいとの願いが込められたコンクールだが、2008年に第1回が開催されてから、毎年、継続して実施されており、昨年で第6回を迎えた。

このコンクールの開催事業は、2009年の第5回社会貢献大賞の都府県方面部門において優秀賞を受賞しており、今回で2回目の受賞となるが、何よりもコンクールの規模や運営方法などの創意工夫と継続性が評価された。2009年のコンクールの表彰式では、福岡県児童養護施設協議会の西田稔夫会長(当時)が、「どうか3回、4回と続けて開催し、子どもたちにたくさんの夢を与えていただきたい」と、来賓を代表してご挨拶をしてくださったが、まさにその期待に応える事業の継続といえるだろう。

第6回となった今回のコンクールのテーマは、「大切なもの」。このテーマに対して、福岡県内の児童養護施設20施設から、計434点の作品の応募があった。例年通り、約2カ月間の募集期間を設けたが、前年を85点も上回る過去最多となる作品の応募があったうえ、今回初めて、対象となる20施設のすべてから応募があったという。これも、こども絵画コンクールを継続して開催していることで、その認知度が確実に向上してきたことの表れだと思われる。審査の結果、小学校低学年・中学年・高学年・中学生の4部門で、それぞれ最優秀賞1点、優秀賞1点、佳作3点が選ばれたほか、16名に審査員特別賞が贈られた。また、受賞作品数・応募作品数をポイントに換算した合計ポイント数が上位となった5施設に対して、施設賞が贈られ



「第6回こども絵画コンクール」展示会場



受賞をした子どもたちと一緒に

た。さらに参加した全児童・生徒、施設に参加賞が贈られた。

事前アンケートで子どもたちの要望を把握

このコンクールは毎年、年度当初に福遊協青年部が中心となって企画・立案し、半年間かけて実施しているものだが、今回は施設の先生方と児童・生徒に事前に「行ってみたい場所」などのアンケートを実施し、より子どもたちに喜んでもらえるコンクールにしようと検討した。その結果、大勢の前で表彰される喜びを感じてもらうとともに、表彰を受けない子どもたちにも楽しんでもらえるよう、福岡県北九州市にある宇宙テーマパーク「スペースワールド」での表彰式開催となった。

11月17日の表彰式には、10時の開園とともに約250名の子どもたちと約60名の引率者が来場し、元気にあいさつしながら、うれしそうに入場する姿が見られた。また、集合から開始までの待ち時間には子どもたちの絵画制作風景の写真をスクリーンに映し出し、さらに表彰状授与の際には各表彰者の受賞作品を映し出す工夫なども行った。今回の会場となったスペースワールドには表彰式を行ったギャラクシーシアターの借用だけでなく、参加者が

一日中楽しめるよう、施設を一日貸し切りで使用してもらったという。

受賞作品を含む全434点の作品は、11月13日から20日までの8日間、福岡市役所1階の多目的ホールにおいて展示され、関係者だけでなく、市役所を訪れた多数の市民に鑑賞された。福遊協青年部では、応募作品のテーマを「大切なもの」にした結果、絵画の内容が家族や友だちに偏ってしまったことを反省点として掲げているが、こうした反省は次回以降の開催に生かされることは間違いない。



選考会の様子

